

テーマ：『地球にやさしい環境について考えよう』～自分たちができる身近な活動を通して～

横浜市立 二つ橋小学校

Tel. 045-364-5121

担当 古住 佳奈子
者：



今年度は昨年度に引き続いた取り組みを継続していくことで、その効果をさらに高めようと思った。具体的には、①各学年の環境教育年間計画の見直し ②グリーン購入の促進 ③外部講師により効果的な学習の推進 ④ごみの分別、リサイクルの推進 である。

■実践成果：

NPO 団体「ナウシカの会」による「森の話と工作教室」も今年で5年目になる。森や間伐材への関心が高まり、森がわたしたちの暮らしに深く関わっていることを理解することができた。5年生では、体験学習でその学習をふまえて環境について考えることができた。

また、学校周辺の緑化や花いっぱい運動にも取り組んだ。夏期の断熱、冬季の保温といった省エネルギー推進や安らぎ感の向上という心理的作用、自然との共生の面で効果があると思われる。今年度は、あさがおやゴーヤでの緑のカーテンにより、教室の日差しを遮り、その効果を確かめた。プランターでは育てにくいことや、夏期休業中になってしまうことなど課題もたくさんあるが、植物との共生を感じることができたと思われる。

学校の回りにはたくさんのプランターにいろとりどりの花を植えた。子どもたちが毎日手入れをすることで、植物への愛着をもつことができた。また、安らぎ感も向上しているのではないかと思う。

また、今年度は新たに、ごみの分別にも重点をおいて子どもたちに指導した。各教室で同じ分別ラックを使うことによって、子どもたちがごみの分別をしやすくなった。また、学年があがっても同じラックで同じように分別するので、小学校の間で、分別の意識や知識も定着してくると思われる。教室のごみは、小さな袋にたまったら、まめに分別ボックスにおきに行く。このように子どもたちが、自分で分別していくことで、さらに環境への関心も高まってきたようだ。継続して子どもたちへの指導を続けていきたい。

■実践ポイント：

- ① 各学年の環境教育年間計画の見直し
- ② グリーン購入の促進
- ③ 外部講師による効果的な学習の推進
- ④ 各クラスで分別を徹底し、分別の知識を定着させ、実行できるようにする。

課題

- ・ 年間活動計画の検証と新たな単元開発
- ・ 学年相互の関わりや学年をおった学習の進め方
- ・ 校地の有効活用と計画的な活用

- ・ 各学年の重点目標にむけた取り組み